

《各学年の特徴》

- 1年 いろいろな体の動かし方に気付き、楽しみながら活動をする児童が多い。
- 2年 いろいろな体の動かし方に気付き、ルールを守り、友達と協力して楽しみながら活動をする児童が多い。
- 3年 運動に楽しんで取り組もうとする児童が多い。運動技能に個人差が多く見られる。
- 4年 運動に楽しんで取り組もうとする児童が多い。運動の特性に合った体の使い方ができない児童もいる。
- 5年 運動に対する興味・関心は高い。一方で運動の特性を捉え、ポイントを意識して取り組むことができない児童もいる。
- 6年 運動の特性を意識して取り組む児童が多い反面、運動に対して苦手意識がある児童も見られ、技能面でも個人差が見られる。

《体力調査から見られる指導の重点》

長座体前屈の結果から、柔軟性に優れている児童が多い。一方、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げにおいて、平均を下回る学年が多く、重点的に指導する必要がある。

育てたい力（課題）

- 1年 ・基本的な体力を友達との関わりを通して向上させる力。
- 2年 ・基本的な体力とその運動で身に付けられる技能を、友達との関わりを通して向上させる力。
- 3年 ・各種の運動の楽しさとその特性に触れ、基本的な運動技能を高めようとする力。
- 4年 ・各種の運動の楽しさとその特性に触れ、その行い方を理解し、基本的な運動技能を高めようとする力。
- 5年 ・友達と協力し、学び合いながら、それぞれの運動の特性や技・動きのポイントを理解し、助言をしようとする力。
- 6年 ・友達と協力し、学び合いながら、それぞれの運動の特性や技・動きのポイントを理解し、的確な助言をする力。

☆授業改善の具体策☆

- ・用具の点検や補充 ・技カードなどの資料の活用 ・視聴覚機器の活用
- ・グループでめあてや作戦を話し合う活動 ・学習カードの活用 ・ICT機器の活用
- ・ホワイトボードの活用 ・動きのポイントの提示 ・動きを見合う場の設定

《知識及び技能》

- 低学年 体づくり運動遊びを通して、様々な運動を楽しむために必要な技能を身に付けさせる。
- 中学年 学習カードやICT機器の活用、練習方法の提示を通して、運動の特性に応じた技能を身に付けさせる。
- 高学年 動きのポイントを提示（児童の気付いたポイントも提示する）することで、その運動の特性に応じた技能を身に付けさせる。
ICT機器を活用して、自分の試技を振り返られるようにする。

《思考力・判断力・表現力等》

- 低学年 学習資料の活用、学習カードへの記入、友達との関わりなどを通して、自分の運動を振り返る場を設定する。
- 中学年 グループ活動による話し合いや、自分や友達の試技を振り返らせる場を設定する。
- 高学年 技能に差異のあるグループ編成を行い、学び合いを深めさせていく。

《学びに向かう力》

- 低学年 それぞれの運動遊びの特性を生かし、やさしい動きからスモールステップで始め、誰もがその運動遊びをすすんで楽しめるようにする。
- 中学年 運動の特性に応じた楽しさや喜びに触れることができるようにする。
最後まで努力して運動できるよう、場や用具の安全に留意し、工夫する。
- 高学年 児童の運動量を確保するため、場面転換に時間をかけない場を工夫する。
技能面や伝え合う力など、様々な方法でグループ編成を工夫する。